

1 政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用 ～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	1 農業の振興

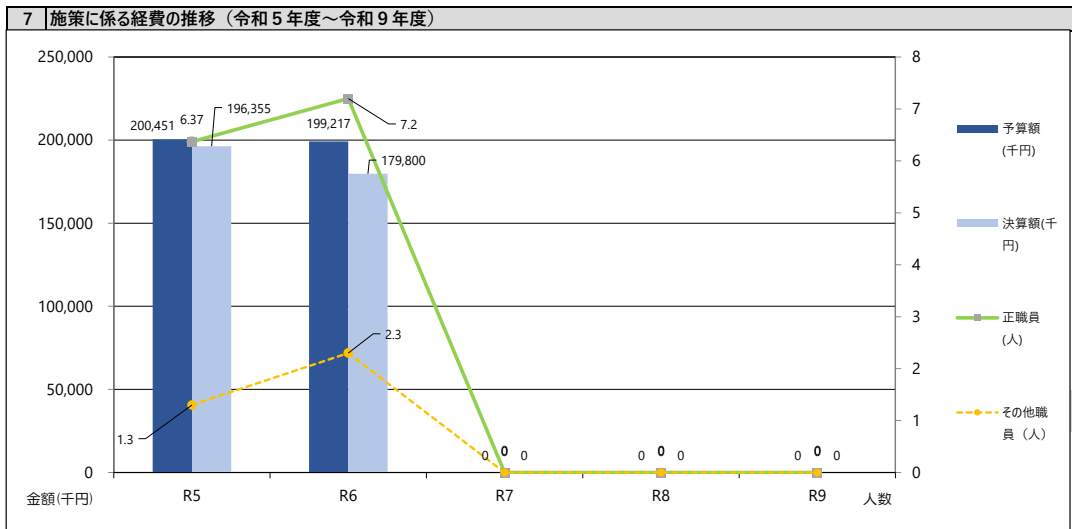
2 施策の主担当課及び関係課	
主担当課	農政課
関係課	—

3 施策の目的	
農業従事者の高齢化や国の農政改革など、農業を取り巻く環境が変化中、農業を成長産業として捉え、担い手だけでなく地域全体で支え合い、次世代に引き継ぐ持続可能な農業の実現を図ります。	

4 後期基本計画（令和5年度～令和9年度）に位置付けている目標指標									
指標名（単位）	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	評価
認定農業者数 〔10ha以上耕作者〕（人）	目標値			36	37	38	39	40	A
	実績値	33	34	33	36				
農地中間管理機構への貸付面積 （ha）	目標値			611	628	652	690	700	S
	実績値	485	524	564	653				
ほ場（30a以上）整備実施済面積 （ha）	目標値			1,445	1,451	1,464	1,490	1,490	A
	実績値	1,341	1,345	1,345	1,375				
多面的機能活動組織による活動面積 （ha）	目標値			529	572	572	600	600	A
	実績値	529	529	532	561				
グリーンツーリズム入込客数（千人）	目標値			280	300	320	340	350	C
	実績値	225	221	204	188				

5 令和6年度の取り組みと評価			
(1) 農業後継者・新規就農者の発掘・育成・支援		取組評価	B
認定農業者等育成事業	・地域農業の担い手を育成するため、認定農業者を確保した。（認定農業者数：170人 R7.3未現在）		B
新規就農者等支援事業	・就農直後の新規就農者に対し、資金を交付し経営を支援した。（国補助10/10）（R6：2名）		A
農業法人化支援事業	・農業法人化件数（0件）		C
企業農業参入支援事業	・チャレンジファームの参入企業が参入エリアを拡大した。（R6拡大面積：4.6ha）		B
スマート農業導入支援事業	・農作業の省力化等を図るため、スマート農業機械の導入を支援した。（R6：2件）		A
(2) 担い手への農地集積と生産基盤の整備		取組評価	A
農地中間管理事業	・ほ場整備地区で農地中間管理事業による貸借手続きを行った。（R6 村君地区：5.0ha）		A
農業基盤整備事業	・県営埼玉型ほ場整備 井泉大房地区：29.6ha、村君地区：51.4ha ・県営ほ場整備事業の調査 弥勒北地区：37.4ha		A
遊休農地解消支援事業	・農業委員会の農地利用状況調査により遊休農地を確認し、農地の利用集積と遊休農地の発生防止・解消対策を実施した。 耕作放棄地解消面積：5.4ha（R7.3未現在）		A
(3) 地域特産物の振興と開発		取組評価	A
高収益作物転換支援事業	・水田を畑地化したチャレンジファームで高収益作物を栽培した。（R6：5者 11.3ha）		A
地産地消推進事業	・学校給食での地元農産物の拡大に向け、新規出荷者の発掘、出荷品目を増やした。 ・バーガーフェス、商工まつり、ゆるキャラさみっと等で羽生の特産物をPRした。 ・新米まつりを開催した。		A
6次産業活性化推進事業	・6次産業化に取り組んだ農業者が市内イベントに出店した。（R6：スポ・レクフェスタ、バーガーフェス、ゆるキャラさみっと、イオン羽生イベント）		A
(4) 地域ぐるみでの農村づくり		取組評価	A
多面的機能維持管理事業	・農業者と地域住民等が一体となり、地域資源である農地や農業用排水路等の環境を良好に保つための共同活動（農業用水路の清掃や草刈り等）を実施した。（共同活動地区数、活動面積 R6：13地区、560.82ha）		A
用排水路維持管理事業	・農業用排水路の整備や補修工事を行い、良好な営農環境、農村環境を整備した。（用排水路整備延長 R6：404m）		A
(5) 都市と農村の交流による地域活性化		取組評価	B
グリーンツーリズム推進事業	・キャッセ羽生を拠点とした観光交流人口の増加に向け、指定管理者による毎月第4日曜日イベントの開催、手ぶらバーベキューの実施、キャッセバーガーの販売を行った。		B
観光農園等連携推進事業	・チャレンジファーム、さいたま水族館、キャッセ羽生で連携しアグリフェスを開催した。（R6：1回） ・羽生水郷公園水辺の花畑広場にハーブ園を整備した。		A

6 令和6年度の施策に係る経費(千円)			経費の現状と今後の見込み	
経費(A+B)	240,505	予算額	199,217	新規就農者・担い手確保のための支援や耕作放棄地解消のための補助金、基盤整備事業を引き続き実施していくため、農業支援にかかる経費は現状維持の見込み。三田ヶ谷農林公園については施設・設備の老朽化による多額の改修費用が必要になる見込み。
A.決算額	179,800	決算額前年対比	-16,555	
B.人件費	60,705	正職員(人)	7.20	
市民1人あたり(円/人)	4,494	その他職員(人)	2.30	



8 課題解決に向けた取り組みと改善策(令和7年度～令和8年度)		
課題	令和7年度	令和8年度
(1) 農業後継者・新規就農者の発掘・育成・支援		
・新たな担い手、多様な担い手の確保 ・新規就農者への支援	・規模拡大を目指す農業者に対し、国補助金の活用を支援する。 ・新規就農者に対し、国補助金の活用を支援する。 ・県農業大学校に通う生徒に授業料等を支援する。 ・チャレンジファームへの企業参入を推進する。 ・農作業の省力化や自動化を図るため、スマート農業機械の導入を支援する。	同左
(2) 担い手への農地集積と生産基盤の整備		
・農業基盤整備の財源確保 ・耕作放棄地の拡大	・県営ほ場整備事業基礎調査(弥勒北地区)を行う。 ・公社宮崎玉型ほ場整備事業(藤井下組第2期地区)を行う。 ・農地中間管理事業の推進及び更新手続きを実施する。 ・遊休農地解消、畦畔撤去に対する支援を実施する。	・県営ほ場整備事業調査(弥勒北地区)を行う。 ・農地中間管理事業の推進及び更新手続きを実施する。 ・遊休農地解消、畦畔撤去に対する支援を実施する。
(3) 地域特産物の振興と開発		
・学校給食への地元食材の使用拡大 ・羽生の農産物のPR強化	・学校給食への出荷を促すため、認定農業者等に出荷者募集を案内する。 ・羽生の農産物PRのため、新米まつりを開催する。 ・市内外の直売イベントに参加し、農産物をPRする。 ・ハンバーガーの羽生産農産物使用に向け、地元農家を紹介する。	同左
(4) 地域ぐるみでの農村づくり		
・多面的機能の活動の際、農業者と地域住民等の安全管理 ・農業従事者等の減少に伴う水路の保全管理	・多面的機能支払交付金制度のPR、新規取組地区の掘り起こしを行う。 ・地区要望による農業用排水路の整備や補修工事について、国・県補助事業及び多面的機能支払交付金の積極的活に用する。	同左
(5) 都市と農村の交流による地域活性化		
・拠点となる三田ヶ谷農林公園の来園者が減少	・老朽化した三田ヶ谷農林公園の施設・設備の改修を行う。 ・キヤッセ羽生の魅力アップを図るため、農業物産館の農産物販売強化、収穫体験を実施する。 ・アグリフェス、バーガーフェスを開催する。	同左

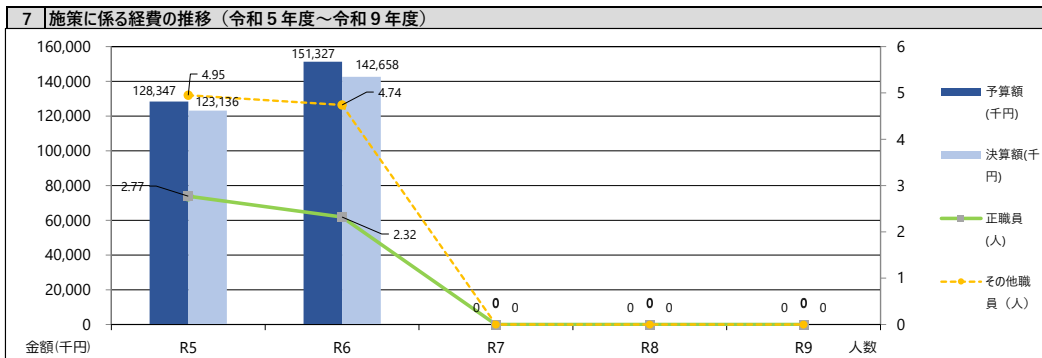
1 政策名および施策名		2 施策の担当課及び関係課	
政策	5 産業・雇用 ～活気と魅力あるまちをつくる～	担当課	商工課
施策	2 商工業の振興	関係課	—

3 施策の目的
活気と賑わいにあふれた買い物しやすい商店街づくりと、中小企業者支援や地場産業の魅力向上を図り、地域経済の活性化を目指します。

4 後期基本計画（令和5年度～令和9年度）に位置付けている目標指標									
指標名（単位）	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	評価
法人市民税額（億円）	目標値			5.3	5.8	6.3	6.8	7.3	S
	実績値	4.3	4.5	5.3	7.4				
市内事業所数	目標値			1,425	1,430	1,435	1,440	1,445	S
	実績値	1,418	1,463	1,458	1,527				
「創業支援事業計画」を活用した創業者数（人／年）	目標値			5	6	7	8	8	C
	実績値	3	5	3	4				

5 令和6年度の取り組みと評価			
(1) 商店街の賑わいづくりと商工会など各種商工団体との連携強化	取組評価	A	事業評価
商工会支援事業	・商工会事業のプレミアム付商品券へ補助等を実施した。 R5：33,595千円 R6：59,185千円		A
商店街賑わいづくり支援事業	・MALL DESIGN実行委員会による各種イベントの開催を実施した。 ・ムジナもんワイワイ祭りを松原通り商店会にて開催した。（来場者数3,500人）		A
空き店舗対策事業	・商店街空き店舗対策モデル事業補助等を実施した。 R5：3件 R6：4件		A
市民プラザ管理運営事業	・市民プラザの適正な管理運営を行った。（利用件数／利用者数） R5：1,976件／36,190人、R6：2,205件／48,846人		A
(2) 市内中小企業者に対する支援	取組評価	A	事業評価
融資あっせん・利子補給事業	・小規模事業者の事業振興を図るため、セーフティネット・危機関連保証認定を実施した。 実績 R5：36件 R6：14件 ・市制度融資小口融資を実施した。 R5：6,884,000円 R6：6,690,000円 ・市制度融資や埼玉県制度融資への利子補給を実施した。 R5：86件 1,075,840円 R6：65件、722,750円		A
住宅改修補助金事業	・住宅改修補助を実施した。 R5：108件、7,910,000円 R6：101件、7,846,000円		A
緊急時の事業継続支援	・新規事業を始める事業者に対し、チャレンジ補助金を実施した。 R5：23件 R6：22件		A
(3) 地場産業の魅力向上	取組評価	A	事業評価
藍染振興事業	・プラザふれ藍ショップを運営した。 販売額 R5：93点、324,935円 R6：106点、373,315円 ・市民プラザにて藍染体験を実施した。 体験者数 R5：947人 R6：561人 ・平成25年10月から富士河口湖町で藍染製品の展示・販売をした。 ・羽生駅自由通路に藍染品を展示してPRした。 ・図書館・郷土資料館ふれ藍まつりを開催しPRした。		A
被服・織物産業振興事業	・平成29年1月から駅自由通路内のショーケースにおいて、産地産業振興協議会の構成団体が製品を展示した。 ・勉強会（セミナー）、産地会員企業見学会を開催した。		A
(4) 創業支援の推進	取組評価	A	事業評価
創業支援ワンストップ相談窓口事業	・商工会と連携し創業支援の窓口をワンストップ化した。 相談件数 R5：13人 R6：18人 ・創業支援事業を活用し創業した件数（延べ人数） R6時点：76人		A
創業支援セミナー開催事業	・創業支援セミナー及び交流会の開催を支援し、市内で創業する方の支援を実施した。 参加者数 R5：17人 R6：18人 ・女性向け創業セミナーを開催した。 参加者数 R5：15人 R6：7人 ・シニア向け創業セミナーを開催した。 参加者数 R5：19人 R6：17人		A
羽生市創業支援事業補助金事業	・自分のお店を持ちたい方を対象にチャレンジショップを開設した。 出店者数 R5：1件 R6：1件 ・市内で新たに創業する人に対して創業支援事業補助金を実施した。 R5：3人 R6：4人 ・MALL DESIGNと連携し、創業支援交流会を実施した。		A

6 令和6年度の施策に係る経費(千円)			経費の現状と今後の見込み	
経費(A+B)	170,295	予算額	151,327	商工会や各種団体等への補助金は、横ばい推移である。商工業の振興にかかる経費(住宅改修補助、新規チャレンジ補助、創業支援)は、執行率も高く、今後も継続支援していきたい。市民プラザについては、経年劣化が進んでおり、多額の改修費用が見込まれる。
A.決算額	142,658	決算額前年対比	19,522	
B.人件費	27,637	正職員(人)	5.00	
市民1人あたり(円/人)	3,182	その他職員(人)	5.00	



8 課題解決に向けた取り組みと改善策(令和7年度~令和8年度)			
課題	令和7年度	令和8年度	
(1) 商店街の賑わいづくりと商工会など各種商工団体との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少及び後継者不足による商店街利用者の減少と空き店舗の増加 ・大型ショッピングモールやオンラインショップの台頭による商店街の厳しい経営環境 ・老朽化が進む市民プラザの今後の在り方の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携し、プレミアム付商品券事業を実施する。 ・商店街空き店舗対策モデル事業費補助金により、空き店舗の有効活用を図り、商店街の活性化につなげていく。 ・MALLDESIGN実行委員会と連携し、商店街でのイベント開催など商店街の活性化を進める。 ・市民プラザ施設としての今後について統廃合含め検討するとともにコスト意識をもって適切な維持管理運営を行う。 	同左
(2) 市内中小企業者に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・集客力や話題性のある店舗不足による新規顧客層の獲得が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内事業者が積極的に事業投資を行えるよう、融資制度や利子補給制度の充実を図る。 ・引き続き市内業者の振興として、住宅改修補助金制度を実施する。 ・商工会や各種団体と連携し、融資制度や利子補給制度の情報を広く周知する。また、SNSや広報メディアを活用する。 ・事業者が新しい事業に積極的にチャレンジできるよう、チャレンジ事業補助制度を引き続き実施する。 	同左
(3) 地場産業の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれ藍ショップ、藍染め体験の認知度不足 ・商品・製品の販路拡大 ・職人の高齢化や後継者不足が進み、技術継承の確保が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを通じて藍染や藍染め体験の魅力を若い世代に向けて発信、認知度を高める ・地域のイベントや他市イベントに出展し、藍染め体験ブースを実施する。 ・新しい商品販売場所の検討、交渉を行う。 ・産地産業の活性化に向けた、勉強会等を実施する。 ・地域のイベントや他市イベントに出店し、産地製品のPRを実施する。 	同左
(4) 創業支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・創業希望者への周知不足の可能性 ・創業手続きや必要書類の複雑化による障壁化の可能性 ・創業後のビジネス定着までの持続的支援の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携し、高齢者、女性など幅広い世代に向けた創業セミナーを開催する。 ・創業支援に関する情報を、ホームページやパンフレット、セミナー開催を通じて、積極的に発信する。潜在的な創業者が必要な情報にアクセスしやすくする。 ・商工会、MALLDESIGNと連携し、創業者向けの交流会などを開催する。情報交換や協力の機会を増やす。 	同左

1	政策名および施策名
政策	5 産業・雇用 ～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	3 観光の振興

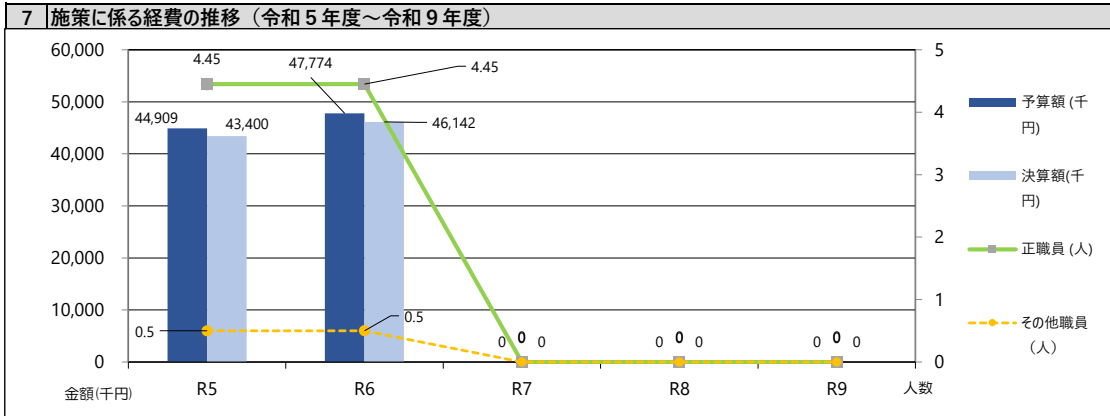
2	施策の担当課及び関係課
担当課	観光プロモーション課
関係課	商工課

3	施策の目的
羽生らしい魅力的な地域資源を観光や特産品など様々な形で活用し、「羽生らしさ」を伝え、地域が元気になる観光を実現することにより、地域の活性化を推進し、観光交流人口100万人を実現します。	

4	後期基本計画（令和5年度～令和9年度）に位置付けている目標指標									
	指標名（単位）	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	評価
観光交流人口（万人）	目標値				60	70	80	90	100	A
	実績値		31	54	62	64				
市内撮影数（回数）	目標値				14	18	22	26	30	S
	実績値		24	13	15	24				
	目標値									
	実績値									

5	令和6年度の取り組みと評価			
(1)	観光資源の磨き上げ	取組評価	A	事業評価
	藍染体験事業	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントでの出張藍染体験（ワークショップ）を開催した。（92人/6回/年） 市民プラザにて藍染体験を実施した。体験者数 R5：947人 R6：561人 		A
	ロケーションサービス事業	<ul style="list-style-type: none"> 以前撮影にかかわった番組制作担当の紹介やリピーターによって件数が増加した。 		S
(2)	観光拠点施設の充実	取組評価	A	事業評価
	道の駅はにゅうの有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅イベントを継続開催した。 SNSなどを活用したPR活動の強化を行った。 情報提供コーナーをリニューアルし産地製品をPRした。 		A
	広域観光連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> キャッセ羽生、さいたま水族館、古代運會館（行田市）、加須未来館（加須市）との連携会議において周遊できる仕組みづくりを再構築して来場者数向上を図った。 		A
(3)	観光活動推進団体の活動促進	取組評価	A	事業評価
	観光を通じた人材育成支援	<ul style="list-style-type: none"> さみっと実行委員 新規委員が5名参加した。 まち歩き事業は、リピーター・新規参加ともに増加し市の歴史を知る人を増やした。 		A
	観光協会活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> 武蔵野銀行 M's SQUAREにて、藍染・ムジナモ展示をはじめとする市のPRを実施した。 展示：8/20～8/30 PRイベント：8/24（市の物産やキャラクターグッズ販売） 		B
(4)	地域及び事業者との連携による観光PRの推進	取組評価	A	事業評価
	「世界キャラクターさみっとin羽生」の開催	<ul style="list-style-type: none"> キャラクターとふるさと納税を融合したご飯のおとも企画を実施した。 「クレヨンしんちゃんのしんちゃん」が来場した。ものづくり大学学生制作のアスレチック体験を行った。 		A
	地域及び事業者との連携によるイベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> さいたま水族館の「ナイトアクアリウム」と合同のキャラクターイベントを実施した。 東武鉄道と連携し浅草駅前でさみっとPRイベントを実施した。 パサール羽生公式キャラクターのミッチーを羽生市公認PR大使として任命するとともに、パサール羽生で羽生市PRイベントを実施した。 TIC東京と連携し東京駅日本橋口でふるさと納税PRイベントを実施した。 		A
	各種媒体やキャラクターを活用した観光PRの推進	<ul style="list-style-type: none"> YouTube「ムジナもんチャンネル」、実行委員のInstagramといったSNSにてイベント情報の発信を継続して行うとともに、TIC東京を通じて海外向けにイベント情報を発信した。 		B

6 令和6年度の施策に係る経費(千円)			経費の現状と今後の見込み	
経費(A+B)	81,367	予算額	47,774	観光振興及び観光協会運営のため、補助金等の確保が必要となる。今後は実施・運営規模に応じた経費負担が見込まれる。
A.決算額	46,142	決算額前年対比	2,742	
B.人件費	35,225	正職員(人)	4.45	
市民1人あたり(円/人)	1,520	その他職員(人)	0.50	



8 課題解決に向けた取り組みと改善策(令和7年度～令和8年度)		
課題	令和7年度	令和8年度
(1) 観光資源の磨き上げ		
・藍染体験事業の認知度向上を図るため、若い世代を含む多様な層への訴求強化 ・ロケーションの誘致から撮影された作品のロケスポットとしての聖地化	・若者対象の藍染教育プログラム事業実施に向けた企画、検討を行う。 ・地域イベントや他市イベントでの藍染体験ブースの出店やSNSを通じて藍染や藍染体験の魅力を若い世代へ伝え認知度を高める。 ・地元の学校、企業、観光施設とのコラボして、新しい層の開拓を行う。 ・ロケ地をマップ化して認知度を上げる。 ・ロケ誘致のため近隣でのロケ地共有を行う。	同左
(2) 観光拠点施設の充実		
・道の駅魅力PRに関する課題 ・来場者数の減少による売上高の減少 ・魅力的なコンテンツの創出	・指定管理者による、イベントの継続的な開催や、SNSや情報発信コーナーなどを活用して、魅力発信のPRを強化する。 ・委託販売の利用料金率を再検討し、出展者の拡充を行う。 ・加須・行田と連携した企画やイベントや渡良瀬遊水地周辺自治体でのイベント開催により観光誘致を行う。	同左
(3) 観光活動推進団体の活動促進		
・観光ガイドなどの観光に特化した人材の創出のための仕組みづくり ・観光協会の組織体制を整え、事業の取り組みがスムーズに行う仕組みづくり	・観光に特化した観光人材の創出のため、イベントなどを通じて中心となる人材とともに事業を行っていく。 ・観光協会と市観光部門がともに強みを活かせるような仕組みづくりを行いながら、観光事業を両輪で働きかけ、地域活性化に寄与する。	同左
(4) 地域及び事業者との連携による観光PRの推進		
・キャラクターさみつの存在意義を再確認し、新たな価値の創造 ・情報発信力の強化によりファン拡大施策の具体化	・羽生と地域、地方をつなげ、地方創生イベントとして新たにふるさと納税などのコンテンツを取り込む。 ・根強い羽生のファンに新たなファンを取り込むため、新しいコンテンツや分野でのPRを行っていく。 ・新しい会場でのイベントを開催し、市全体のにぎわいに寄与するイベントとして展開していく。	同左

1	政策名および施策名
政策	5 産業・雇用 ～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	4 勤労者支援・雇用の促進

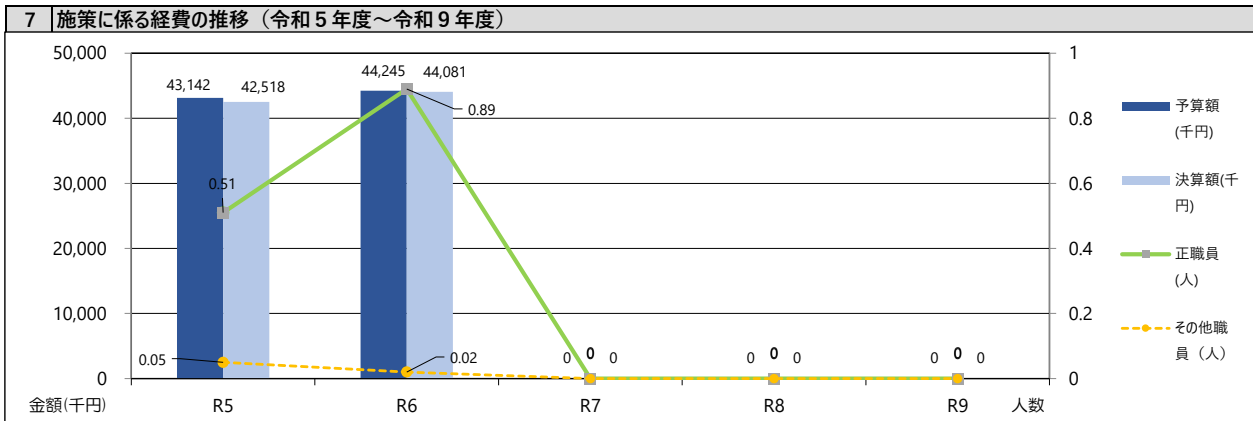
2	施策の担当課及び関係課
担当課	商工課
関係課	—

3	施策の目的
多様化する労働環境に対応した労働行政の推進と、様々な世代に対する雇用機会の創出や就業の促進により、市民が安心して働くことができる環境を目指します。	

4	後期基本計画（令和5年度～令和9年度）に位置付けている目標指標									
	指標名（単位）	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	評価
羽生市ふるさとハローワーク就職率（％）	目標値				42.0	44.0	46.0	48.0	50.0	A
	実績値	38.0	54.0	53.0	43.0					
シニア向け就業支援セミナー参加者数（人）	目標値				21	22	23	24	25	B
	実績値	19	19	19	17					
女性就業セミナー参加者数（人）	目標値				18	19	20	21	22	C
	実績値	16	16	15	7					

5	令和6年度の取り組みと評価			
(1)	就業支援の充実	取組評価	B	事業評価
	「羽生市ふるさとハローワーク」等との連携	・ハローワークの更なる利用促進のため、広報に就職相談、ハローワーク周知記事の掲載を行った。		B
	内職相談事業	・企業からの内職相談をあっせんした。 相談件数 R5：42件 R6：38件		B
	就業支援セミナー事業	・埼玉県、商工会などと連携し各種セミナーを開催した。 （就労支援セミナー R5：6回83人 R6：6回72人） ・県共催セミナー、相談を実施した。 （埼玉県労働セミナー R5：387人 R6：172人）		B
	各種就労支援事業	・高齢者、障害者などの雇用支援事業に関するチラシの配布・掲示を行った。		B
(2)	就業機会の創出	取組評価	B	事業評価
	行田地区雇用対策協議会事業	・合同での就職面接会を実施した。広報やホームページなどで周知した。 ・行田地域就職面接会を開催した。 R5：応募企業7社 参加者37人 R6：応募企業12社 参加者121人 ・シニア向け就職面接会を開催した。 R5：応募企業7社 参加者51人 R6：応募企業7社 参加者45人		B
	羽生市シルバー人材センター支援事業	・羽生市シルバー人材センターに補助金を交付し、運営費の補助などの支援を行った。		A
(3)	安心して働ける環境の整備	取組評価	B	事業評価
	中小企業従業員退職金等共済事業	・従業員の福祉の増進を図るため、中小企業に対する退職金共済制度の適正な運営を行った。 R5：54事業所 加入者278人 口数1,305口 R6：50事業所 加入者272人 口数1,267口		B
	ワークヒルズ羽生管理運営事業	・指定管理者によるワークヒルズ羽生の適正な管理運営が行われた。（利用件数、利用者数） R5：2,442件／38,117人 R6：2,385件／41,177人		A
	労働セミナー事業	・埼玉県などと連携し、労働セミナーを開催した。		B

6 令和6年度の施策に係る経費(千円)				経費の現状と今後の見込み	
経費(A+B)	50,980	予算額	44,245	シルバー人材センターへの補助、中小企業従業員退職金等共済事業、ワークヒルズ羽生の指定管理事業とも、今後の経費に大きな変動はなく、横ばいが見込まれる。	
A.決算額	44,081	決算額前年対比	1,563		
B.人件費	6,899	正職員(人)	0.89		
市民1人あたり(円/人)	953	その他職員(人)	0.02		



8 課題解決に向けた取り組みと改善策(令和7年度～令和8年度)		
課題	令和7年度	令和8年度
(1) 就業支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会、埼玉県、ハローワーク行田と連携し、就労支援セミナーの開催や就労支援事業の充実を図る ・支援事業について、SNSや広報メディアを活用した周知を強化する。 	同左
(2) 就業機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・合同での就職面接会の実施し、企業数を確保する。 ・地元広報誌、メディア、SNSなどの広範囲での広報活動を実施する。 	同左
(3) 安心して働ける環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の強化を行う。 ・制度の存在とそのメリットについて、企業や従業員に向けた広報活動を強化する。また、市や関連団体による説明、パンフレット、ホームページを通じた情報提供を積極的に行う。 ・老朽化した施設・設備の改修を定期的に行い、施設の魅力を維持する。 ・市民や企業に向けて、ワークヒルズ羽生の積極的なPR活動を行い、利用率の向上を図る。 	同左

1	政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用 ～活気と魅力あるまちをつくる～	
施策	5 企業誘致の推進	

2	施策の主担当課及び関係課	
主担当課	企業誘致推進課	
関係課	—	

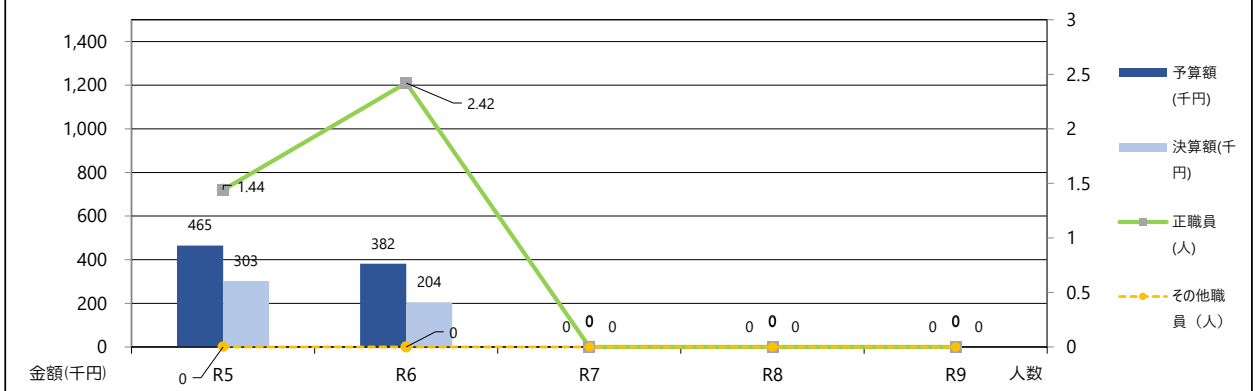
3	施策の目的
<p>新たな企業の誘致及び既存企業の市内拡張を積極的に進め、働く場の創出や税収の確保につなげるとともに、企業活動を活発化させ市内経済の活性化を実現します。</p>	

4	後期基本計画（令和5年度～令和9年度）に位置付けている目標指標									
	指標名（単位）	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	評価
開発可能エリア（市街化区域編入区域及び都市計画法第34条第12号指定区域等）指定件数（箇所）	目標値				8	8	9	9	10	S
	実績値	7	7	10	11					
企業立地件数（社）	目標値				25	26	27	28	29	S
	実績値	20	27	32	37					
	目標値									
	実績値									

5	令和6年度の取り組みと評価			
(1)	企業誘致活動の積極的な展開	取組評価	A	事業評価
	立地優位性の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問、先進地視察、事業用地の紹介等を行い、羽生市における立地優位性を発信した。（R6：合計132件） 企業誘致推進課のホームページを改定した。 羽生市企業立地ガイドをリニューアルした。 		A
	「企業立地優遇制度」の充実	<ul style="list-style-type: none"> 優遇措置認定件数（R6：1件） 企業訪問の際に、埼玉県産業立地促進補助金制度のPRを実施した。 		B
	企業誘致に関する企業等との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 新たな工場等の立地を検討する企業からの相談に対して関係各課と連携し対応した。 新卒採用を希望する企業を支援するため、市内高等学校を訪問し、企業の紹介及び進路状況等について意見交換を実施した。 		A
(2)	新たな工業・産業用地の創出・確保	取組評価	A	事業評価
	工業・産業系市街地の創出	<ul style="list-style-type: none"> 新たな産業団地創出に向け、埼玉県企業局では候補地選定調査を実施した。市では当該調査の補助や関係部署との調整・協議、地権者への意向確認調査等を実施した。 民間活力を活用した市街化調整区域による地区計画などの手法によって、新たな工業・産業用地の創出のため、埼玉県や事業者との協議を定期的実施した。 		A
	開発許可制度を活用した新たな工業用地の確保	<ul style="list-style-type: none"> 開発事業者に対して企業立地の可能性のある土地に関する助言を行い、開発許可取得に係る手続き等について関係各課と調整の場を設けるなど総合窓口としてワンストップサービスを実施した。 都市計画法第34条第12号産業系土地利用を追加指定した。（R6：1件 1.6ha） 事業用地確保における農業委員会への事前相談を実施した。（R6：2件） 		A

6 令和6年度の施策に係る経費(千円)				経費の現状と今後の見込み	
経費(A+B)	18,824	予算額	382	企業訪問及びアンケートのための旅費及び郵便料などが主たる経費であったが、令和7年度からは上岩瀬地内アクセス道路整備に伴い経費が増加した。また、新たな産業団地整備を進めていくに当たり、用地交渉、関係機関協議や実施設計、図書作成などの業務委託が予定される。	
A.決算額	204	決算額前年対比	-99		
B.人件費	18,620	正職員(人)	2.42		
市民1人あたり(円/人)	352	その他職員(人)	0.00		

7 施策に係る経費の推移(令和5年度～令和9年度)



8 課題解決に向けた取り組みと改善策(令和7年度～令和8年度)

課題	令和7年度	令和8年度
(1) 企業誘致活動の積極的な展開	<ul style="list-style-type: none"> ・市内への立地を希望している企業に対して事業用地を紹介するため、市内不動産業者等と連携して未利用地情報を把握し、ホームページで発信する。 ・県企業立地課及び金融機関と連携し、物件情報等の共有を図る。 ・県産業立地促進補助金制度をPRする。 ・企業訪問を実施し関係を深め、企業ニーズの把握に努める。 ・市内外の企業に対してアンケートを実施し、立地ニーズを調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・企業立地優遇制度について関係部署と意見交換、調整を図り、今後の方向性について決定する。
(2) 新たな工業・産業用地の創出・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の工業団地、産業団地は空きがない状況のため、県企業局や民間企業等と連携し、用地の確保に努める。 ・上岩瀬地内の企業跡地へのアクセス道路(市道0137号線)整備のため、測量及び地質調査、設計業務を実施する。(建設課へ執行依頼) ・産業団地整備に向けた地権者交渉、関係機関調整を実施する。 ・新産業の立地を支援するため、関係部署と連携し、市内立地の可能性を調査する。 ・公共施設の跡地利活用について関係部署と連携を図り、利活用を実現させる。 ・開発許可制度を活用した新たな工業用地の確保について可能性調査を実施し、庁内調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・上岩瀬地内アクセス道路整備(物件調査)を実施する。 ・産業団地整備に向けた用地買収、農林調整、都市計画協議を実施する。

1	政策名および施策名
政策	5 産業・雇用 ～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	6 シティプロモーションの推進

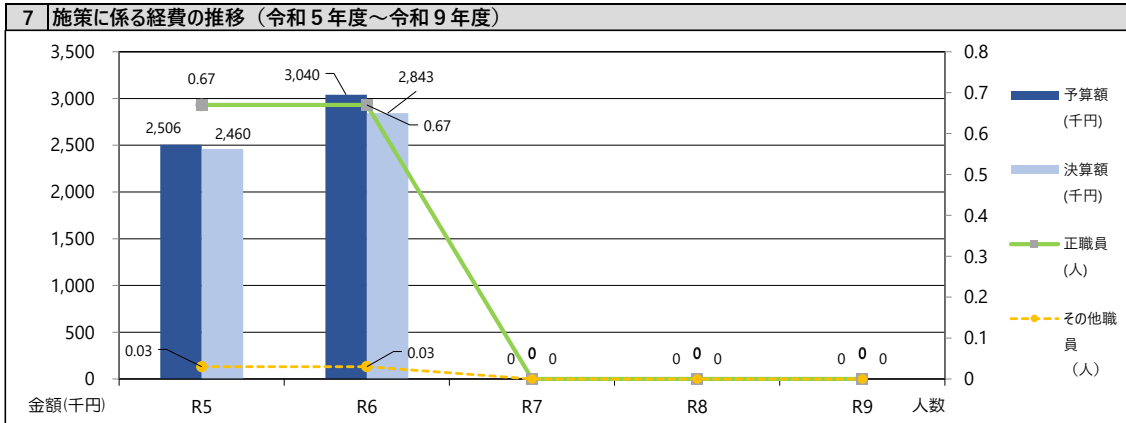
2	施策の担当課及び関係課
担当課	観光プロモーション課
関係課	企画課

3	施策の目的
本市に在住する方や興味や関わりがある方をはじめ、市内外のすべての方に本市の魅力をわかりやすく、多角的・効率的に発信し、交流人口や関係人口の増加につなげます。	

4	後期基本計画（令和5年度～令和9年度）に位置付けている目標指標									
	指標名（単位）	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	評価
ホームページ閲覧件数（件）	目標値				1,404,000	1,428,000	1,452,000	1,476,000	1,500,000	C
	実績値	1,355,757	1,066,322	1,014,269	922,405					
SNS登録者数（人）	目標値				20,500	20,700	20,900	21,100	21,300	A
	実績値	18,704	20,975	20,754	20,481					
YouTubeチャンネル登録者数（人）	目標値				3,000	3,500	4,000	4,500	5,000	C
	実績値	2,018	2,339	2,367	2,410					

5	令和6年度の取り組みと評価		
(1)	シティプロモーションの推進	取組評価	B
ホームページ活用事業	・イベント情報をトップページのスライドショーや注目情報に掲載し周知を図った。また、記事を見やすくするための工夫を行い、最新情報の掲載にも務めた。		B
SNSを活用した情報発信事業	・市民向けにはLINE、広域に周知する場合にはX、各種SNSによるテキストでの周知、事業のPR等はYoutubeを用いるなど、対象に応じた方法で情報発信を行った。		B
(2)	地域ブランドの推進	取組評価	A
藍染製品PRの推進	・羽生駅自由通路に藍染製品を展示してPRを行った。 ・郷土資料館・図書館ふれ藍まつりで藍染製品を装飾してPRを行った。 ・各種イベントで出張藍染体験を実施し、藍染製品のPRを行った。		A
農商工連携による商品化の研究・支援	・バーガーによる地域活性化の協定を結び地産地消のハンバーガーの創出を支援した。 ・バーガーイベントを通じて、市内の事業者・農産物生産者のPRを行った。		B
(3)	移住の推進	取組評価	A
移住相談支援事業	・民間の知見等を活用し新たな事業展開を図るため、株式会社アナザーワークスが運営する「複業クラウドfor Public」（複業マッチングプラットフォーム）を活用した複業人材活用に関する実証事業に参加し、2事業に着手した。 （①移住・定住促進施策の検討事業 ②SNS（Instagram）活用事業）		A

6 令和6年度の施策に係る経費 (千円)				経費の現状と今後の見込み	
経費 (A+B)	8,058	予算額	3,040	藍染製品PR事業については、横ばい推移であり、今後も同程度の推移が見込まれる。バーガーを通じたPRについては、ほぼゼロ予算で実施している。	
A.決算額	2,843	決算額前年対比	383		
B.人件費	5,215	正職員 (人)	0.67		
市民1人あたり (円/人)	151	その他職員 (人)	0.03		



8 課題解決に向けた取り組みと改善策 (令和7年度～令和8年度)		
課題	令和7年度	令和8年度
(1) シティプロモーションの推進		
・HP閲覧数の減少、SNS利用数の増加に伴う、ターゲットの違いや情報の質や量に合わせたプロモーション手法の選定	・伝えたい情報の種類や対象者に応じた方法で情報を発信する。 ・情報発信ツールの流行に応じて柔軟に対応する。 ・各課が主体的に情報発信できるような仕組みづくりや体制を整備する。	同左
(2) 地域ブランドの推進		
・6次産業化の取り組みによる商品開発の停滞	・SNSやオンラインメディアを活用した、PR活動の強化及び藍染イベントの開催に向けた企画や検討を行う。 ・出張藍染体験ワークショップの実施や新規販売業者、販売場所の検討、藍染に触れる機会と販路の拡大を図る。 ・バーガーイベントなどを通じて、市内事業者・農産物生産者のPR及び地産地消に向けた企画や検討を行う。	同左
(3) 移住の推進		
・効果的な情報発信	・株式会社アナザークラスとの実証事業の成果を踏まえ、本市に必要な新たな施策の実現性について精査し、事業化を図る。 ・移住促進チラシの配布や公式Instagramでの情報発信、移住促進イベントへの参加など、様々な媒体を活用して積極的にプロモーションを展開する。	同左